

## 令和2年度 第2学期 始業式

みなさんこんにちは。夏休みが終わりました。今年は例年と違い短い夏休みでした。なかなかゆっくりと自分の時間を持ったり、何かに取り組んだりすることができにくかったかもしれませんね。そんな中でも豪雨の災害から少しずつ市内の片付けが進み、ゆっくりですが日常が戻りつつあることをうれしく思っています。

さて、今日は2学期の始業式です。新しい学期の始まりは、人の気持ちを新しくしてくれます。「2学期はこんなことを頑張ろう」「このような計画でこのようなことを達成しよう」などと考えていることでしょう。

ところで、みなさんは宮崎駿さんというアニメの映画監督を知っているでしょう。「となりのトトロ」や「千と千尋の神隠し」など数々の作品を世に出された人です。もうずいぶん前にその宮崎駿さんの「崖の上のポニョ」の制作現場を追ったドキュメンタリー番組を見る機会がありました。

その取材は2年と300日にわたる取材で、宮崎駿さんが時間をかけてポニョを何も無いところから、絵コンテを描きながら少しずつストーリーを生み出し、ほんの数分ずつスタッフと作っていく様子が描かれていました。絵がイメージと違うとっては書き直し、スタッフと話し合い、具体化していく。ストーリーがつかないと言っては、頭をかきながらアイデアをひねり出していくのです。その映画にかける姿勢や厳しさは鬼気迫るものがありました。

ポニョはスタッフの娘さんの写真がきっかけになって生まれたということでしたが、前作から4年ぶりの作品だったそうです。4年間もの年月をかけて1つの作品を仕上げたということでした。

そこで、ぼんやりと考えたことがありました。それは「何年か後に向けて自分は何か取り組んでいるか？」ということです。日々の仕事に紛れて、4年後や5年後に向けて何か自分の目標みたいなものに向けて準備を進めているかということでした。

確かに、宮崎駿監督はそれ自体が仕事ですから、「映画」という形で一つの区切りを迎えるのでしょうが、だとしたら、私たちはどのような区切りに向けて準備を続けているのでしょうか？ 学習であれ部活動であれ、自分自身の目標や区切りに向かった準備ができているの

でしょうか？

宮崎駿監督の「ポニョ」への取組を映像で追いながら「自分のポニョ」とはいったい何なんだろうと、改めて考えさせられました。

さて、みなさんは新学期を迎えて新しい希望を胸に計画を立てていることでしょう。しかし、計画というものは未来にあるもので「私はこんなふうになりたい」「私たちはこうしよう」という希望を掲げるものです。2学期の始まりに当たり新しい希望を持つことは大切ですが、それを単なる希望に終わらせないためには「何をどうすべきか」ということを具体化し、その第一歩を、今日から踏み出すことが大切です。希望や計画は実行が伴って初めて意味をなすのです。計画や希望だけがあって実行しなければ何の成果も得られることはないのです。また、計画を実行に移すとき、いい加減に実行しても得られるものはないでしょう。実行は心を込めて行うことで、その経験が自分の力として宿っていくのです。つまり「計画は実行あってこそ」のものであり「実行は心を込めてこそ」のものであるのです。真剣に実践するからこそ、つまずいたり悩んだり、辛い思いをしたりするし、そのことが自分を成長させてくれるのです。

みなさんが、学習や部活動をはじめ体育祭などの行事や様々な活動に本気で取り組み、自分の中にある未知の力を発見し育ててくれることを願っています。「こんな力が自分にはあったんだと」自分を再認識できるそんな2学期にしてください。

もう一度言います。「計画は実行あってこそ」「実行は心を込めてこそ」です。みんな自分の「ポニョ」の完成に向かって頑張りましょう。充実した2学期にしてください。